

令和元年度
短時間就業支援事業事例集



東京都産業労働局

目次

はじめに P3

藤倉商事株式会社

短時間就業支援事業での職場体験実習を、
企業と人材のマッチングを見極める機会に P4

日本物理探鉱株式会社

障がい者雇用に取り組むことで、
会社全体に良い変化が起こることを期待 P6

株式会社印南製作所

障がい者雇用に向けた取り組みは初めて
サポートを受けつつ“雇用体験”をしたい P8



はじめに

平成 30 年 4 月から、精神障害者が雇用義務の対象に加わり、民間企業の法定雇用率が 2.0%から 2.2%へ引き上げられました。また令和 3 年 4 月までには、2.3%まで引き上げることが決定されています。

障害者雇用に対する企業の関心や本人の就労意欲の高まりから、障害者の実雇用率、就職件数が上昇傾向にある中、東京都では、今後一層の障害者雇用を推進していくことを目的にフルタイム労働が困難な障害者の働く場を開拓するとともに、中小企業が障害者雇用を進めていくためのきっかけづくりを支援するモデル事業を開始しました。

本冊子では、この事業を活用された企業様の実習に対する受入れ準備や工夫等、また、実習生の自信や気づき等の感想を紹介しています。

本冊子が障害者雇用を検討する皆様の一助になれば幸いです。

東京都産業労働局雇用就業部就業推進課



～短時間就業支援事業での職場体験実習を、 企業と人材のマッチングを見極める機会に～

“障がいのある方を直接雇用し、社会貢献を”という考えのもと、これまでも独自に障がい者雇用に取り組んできましたが、雇用後の定着に難しさがありました。今まで雇用した障がいのある社員の中には、自身の障がいについて周囲の社員に知られたいと希望される方も多く、その場合は配慮できることに限界があり、うまくいきませんでした。今回は短時間就業支援事業の実習の受け入れを通じて、雇用前に、働くうえで必要な配慮事項や担当する業務の内容を相互に確認し、企業と人材がマッチしているかを互いに確かめる機会にしたいと考えました。雇用前の実習を行うことは、今回が初めての試みでした。

受入れ準備や工夫

受入れ部署の社員へ事前周知 周囲の理解を得て働ける環境づくり

今回の実習は総務部で受け入れましたので、総務部の社員には事前に、障がいのある方が2週間の実習をしに来ることを周知しました（他部署には実習生が来るとだけ周知）。基本的には普通に接してほしいことを伝えただけで、必要となる配慮点を伝え、受け入れる環境を整えました。結果として実習中は、隣の席の社員と会話をする姿も見られていました。

“業務指示は一人の担当者から” 障がい特性に合わせた対応ルール

障がい特性として複数の人から業務指示を受けると迷ってしまう、ということを実前に聞いていたので、業務指示の窓口は担当者一人からとルールを決めておきました。総務部の社員にも周知しておいたので、実習中は特に困った様子もなく業務に取り組めていました。

取り組んで気づいたこと

毎日 10～15 分間の振り返り お互いに状況確認でき、業務も円滑に

担当者も自分の業務がありますので、付き切りで教えることはできません。業務を伝え、まずは自分でやってみてもらいました。その代わりに、毎日終了時間の 10～15 分前に担当者と振り返りをして、疑問点がある場合は洗い出して解消できるようにしました。また、次に依頼したい業務の提案もし、一人で行えるかどうか本人と確認する時間としても利用していました。

周囲の理解を得て必要な配慮ができれば、 持っている力を発揮してくれる

今回の実習生は、障がいについて基本的に周囲に開示してよいという方だったので、配慮事項を周囲に説明して対応することができました。実習生も、担当した業務をしっかりと仕上げてくださいましたし、今回のように周囲の理解を得て必要なルール決めなどをできていれば、十分な力を発揮してくれることを実感しました。今後、障がい者雇用を進めていくうえでの形が見えてきたと感じました。

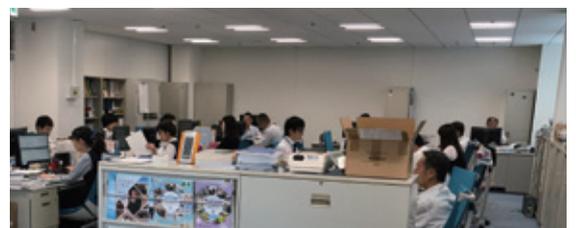
実習受入れ部署・実習時の業務

総務部

<実習生の担当業務>

勤務時間：10：00～15：00（9日間）

- ▶ 法定調書（年間の支払調書）の確認
- ▶ 過去の契約書のチェック



実習生の声

目には見えない障がいですが、配慮を頂けてやりやすかったです。
自信を得られ、今後の課題も見えてきた良い機会になりました。

30代男性・Kさん（統合失調症・広汎性発達障がい）

私の障がいは目に見えないため分かりにくいですが、事前に詳しくヒアリングしていただけたので助かりました。担当の河原塚さんも、私の成長のために新しい仕事を提案してくださったのですが、その仕事も高いハードルにならないように、作業前日に概要を説明したうえで当日見守ってくださったので、委縮しないでやろうと思えました。また、今回の実習の機会に、今まで不安だった満員電車での通勤にも挑戦できて自信になりました。現在通っている就労移行支援事業所で練習していた、業務中に分からないところがあったら聞きに行くということも実践できて、訓練の成果を感じました。一度だけ、過集中を起こしてお昼になったことに気づかない時があったので、時間管理が今後の課題だと思います。頂いた業務は完遂できたので、良かったです。

会社の声

持っている力を発揮して、会社の戦力になってほしい。
必要な配慮などを確認して、会社と本人の双方が納得し、
一緒に働いていける環境を作っていけたらと思います。

今回、障がいのある方の雇用前実習を受入れたのは初めての試みでしたし、障がいについて周囲の社員に周知することも初めてでした。今までは、目に見えない障がいのある方は、障がいについて周囲に隠していたと考えている場合が多いのかなと思っていました。しかし今回の実習生は周囲に障がいを開示してもよいという方でしたので、周囲の社員にも必要な配慮等を説明することができました。周囲に知られたくない、と希望されている場合、周囲の理解を得にくいので、どうしても配慮しきれない部分が生じてしまいます。今回は実習生のできること・難しいことを確認し、配慮が必要なところは周囲の理解を得て対応できましたので、こちらとしてもやりやすさを感じました。実習生も落ち着いた様子で働いていて、お任せした業務もきちんと終わらせてもらえました。今後、障がい者雇用を進めていく上での形が少し見えたように感じ、良い機会になったと思います。

当社としては、障がい者雇用に取り組み社会貢献をしていきたいと考えたと同時に、障がいのある方をただ雇用するのではなく、活躍してもらい戦力になってほしいと考えています。雇用した方には長く働いてほしいと思いますし、そのためにはマッチングの確認は大切だと考えています。今回、初めて実習に取り組みましたが、雇用後のミスマッチを防ぐには有効な方法だと感じました。実習は機会がないとなかなか実施できないとも思いますが、業務内容や必要な配慮、周囲に説明しても問題ないかなど確認をして、お互いに納得したうえで一緒に働くことが大切だと思います。



総務部 課長
河原塚 淳さん

実習生への業務指示/
相談窓口を担当

企業情報



藤倉商事株式会社

所在地 : 東京都中央区新川 1-28-38
東京ダイビル 1 号館 11 階

設立 : 1947 年 12 月

代表者 : 代表取締役 小堀 克宜

資本金 : 3 億 100 万円

従業員数 : 192 名 (2019 年 1 月末時点)

事業内容: 情報通信製品、電子部品、電子材料、
電線、ケーブル、付属品、配電部品、
ファスナー製品等の販売

～障がい者雇用に取り組むことで、 会社全体に良い変化が起こることを期待～

今まで当社では、もともと働いていた従業員が何らかのきっかけで障がいを持ち、手帳を取得して雇用継続するという形で、障がい者雇用を行っていました。そのように働いていた社員が定年退職するなどして、雇用している障がい者がいなくなったことや、障がい者雇用に対する社会的な流れも受けて、短時間就業支援事業に賛同しました。障がいのある方を新たに採用することは当社として初めての試みで、やってみないとわからないところもありましたが、障がい者雇用に取り組むことで「一緒に働く人への気配りをする」という雰囲気ができれば、他の社員にとっても良い変化に繋がるのではないかと期待しています。

受入れ準備や工夫

自分の仕事を振り返って業務切り出し、 周囲にもヒアリングをして業務準備

実習の受入れを決めたあと、まずは担当者自身の仕事を振り返って、どんな仕事が切り出せるのか考えました。また、周囲の社員にもヒアリングし、切り出せる業務を集めました。総務なので、いくらかでも切り出す仕事はあるのですが、短期間でも完結できそうな業務に絞り、実習生の経験や得意・不得意を考慮しながら、実際にお願いする仕事を割り振っていきました。

個人の障がい特性や性格に合わせて 業務指示の仕方を工夫

実習生のUさんは理解力があり、自分でやってみようというタイプの方だったので、本人に任せて業務を進めてもらいました。Tさんの場合は、業務の説明をする際には順序立てて丁寧に説明をし、作業中は集中しすぎてしまう特性があったので休憩の声掛けをするようにしました。事前に障がい特性について資料をもらっていたので、参考にしながら対応できました。

取り組んで気づいたこと

実際に障がいのある方と直接かかわる 貴重な機会です、今後の参考になった

セミナーなどで雇用事例を聞く機会がありますが、障がいのある方と実際に接する機会はありませんでしたので、今回の実習は貴重な機会でした。事前に支援者の方から配慮事項を聞いていましたが、本人とコミュニケーションをとればとるほど、「なるほど」とわかってきて、障がいについての理解が深まったと思います。今回の経験が、今後障がいのある方を雇用するときの参考になると思います。

業務の切り出しが今後の課題 つまらない仕事にならないよう考えたい

当社の仕事は定型ではない業務が多く、どこから業務を切り出すかや、業務量を安定させられるかを考えていく必要があります。また、切り出せる仕事があるとしても、つまらないと感じるような仕事ばかりにはしたくないとも思っています。どのような業務の切り出しができるか、引き続き考えていきたいと思っています。

実習受入れ部署・実習時の業務

総務人事部

<実習生の担当業務>

Uさん

勤務時間：13：00～17：00（5日間）

- ▶ 残業時間集計表の作成
- ▶ 住所録の確認
- ▶ 降水量・降雨量の基礎データ整理
- ▶ 申告書作成業務

Tさん

勤務時間：10：00～15：00（5日間）

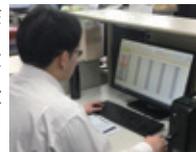
- ▶ 残業時間集計表の作成
- ▶ 通勤費と登録住所の照合・確認
- ▶ 申請書入力
- ▶ データ入力
- ▶ 資料整理

実習生の声

実習を通して、自分に合った働き方がわかってきました。

20代男性・Uさん（うつ病）

実習では、自分に向いている仕事や課題を見つけることを目標にしていました。PC入力作業はミスなくできましたし、苦手と思っていたグラフ作成もできて自信になりました。今後就労するうえで、睡眠をしっかりと取ることが必要だとも感じました。今回の実習で、午後の仕事ならできそうだと思えましたし、事務作業が自分に向いていることもわかりました。



はじめての実習でしたが、いろいろな仕事ができ、目標も達成できました。

20代男性・Tさん（注意欠陥多動性障がい）



今まで就労経験がなく職場体験実習も初めてでしたが、申請書や決算報告書など、大事な仕事もやらせてもらえました。実習の目標を2つ決めていて、質問や報告・連絡・相談をきちんとすることと、体調を整えることを心掛けて取り組みましたが、どちらもできたと思います。作業の得意・不得意も見えてきたので、就労移行支援事業所での今後の訓練に取り入れたいです。

会社全体への良い影響を期待しています。
当社でうまくいった雇用事例をつくり、
他支店にも展開できたらというのが理想です。

会社の声



代表取締役社長
石田 定さん

今まで当社では、障がいのある方を採用したことはありませんでした。今後、前向きに障がい者雇用に取り組みたいと考えておりますが、経験がないため不安もありますし、試行錯誤すると思います。一方で、障がいのある方と一緒に働くことは他の社員にとっても良いことなのではないかと考えています。障がいの有無にかかわらず、一緒に働く社員に対してお互いに配慮し合える会社にしていきたいのです。もちろん、実際に取り組んでみてどうなるかはわかりませんが、当社で良い雇用事例を作れたらと思いますし、ゆくゆくは支店でも雇用を広げられたら理想的だと思います。障がい者雇用によって社会貢献ができればと考えています。

現場担当者の声

今までいろいろなセミナーに参加し、障がい者雇用の事例などを聞いてきましたが、精神障がいのある方と実際に接するのは今回が初めてでした。百聞は一見に如かずで、実際に受入れてみることによって、受入れ準備や業務指導の仕方などに発見や気づきがありました。とても有意義な機会になったと思います。業務の切り出しは今後の課題になると思いますので、引き続き考えていきたいですし、つまらないと感じるような仕事にはしたくないと思っています。障がい者雇用でも、雇用するということは一緒に働く社員になるということですし、障がいがあっても能力のある方はたくさんいると思います。障がい者雇用にはこれから取り組んでいく段階ですが、障害のある社員が安定して働けるよう対応していきたいと考えています。



総務人事部部長
山岡 裕さん

企業情報

NGP 日本物理探査株式会社
Nippon Geophysical Prospecting Co., Ltd.

所在地 : 東京都大田区中馬込
二丁目2番12号

設立 : 1942年12月7日

代表者 : 代表取締役 石田 定

資本金 : 50,000千円

従業員数 : 126名 (2019/4/1 現在)

営業種目 : 磁気探査、物理探査、地質調査、環境調査、文献・資料調査、解析・電算業務、測量、測定機器の製作・販売

～障がい者雇用に向けた取り組みは初めて サポートを受けつつ“雇用体験”をしたい～

今までは障がいのある方の雇用機会がなく、障がい者雇用をするには、バリアフリーなど設備を整えないと受入れが難しいというイメージがありました。昨今の障がい者雇用を促進しようという社会的な動きもあり、いろいろなセミナーなどに参加をしているうちに、障がいにも様々なものがあり、必ずしもバリアフリーな環境でなくとも受入れが可能ではと考えるようになりました。そんな中で短時間就業支援事業を知り、支援者のサポートを受けながら実習を実施できると聞いたので、この機会に障がい者雇用がどんなものなのか、体験して知る機会にしようと考えました。はじめは仕事が切り出せるか不安もありましたが、周囲の社員が協力的だったこともあり、受入れ準備を整えることができました。

受入れ準備や工夫

実習生の受入れにあたり、 必要な準備を事前に打ち合わせ

実習生がどのような障がいのある方で、どのようなことに気をつける必要があり、どのような仕事を依頼すればよいのか、事前に支援者と打ち合わせを行いました。実習生と面接をしても、障がいがあるという印象を受けませんでした。事前情報を得られていたので、実習中も配慮が必要なところを意識しながら接することができました。

まず仕事を事務作業として決めて、 依頼できる業務を切り出し

当社は工場を含めいろいろな仕事があるため、最初はどこで実習するか悩みましたが、まず場所を事務所内と決めてから業務内容を考えました。事務作業で、実習期間内に完結することができる仕事と考えて準備しました。



<事務所内の様子>

取り組んで気づいたこと

業務切り出しに取り組む中で、 現行の業務内容の課題を発見

今までは各従業員に仕事を任せていたこともあり、業務の切り出しをする中で、従業員一人一人が自分に合った方法で業務を進めていて、それぞれの従業員が各業務を抱え込んでいる状況も見えてきました。切り出せるような状態に業務を標準化することで、各従業員の負担を分担できるようにもなると思います。会社として業務内容の整備が必要だと感じ、課題を発見する機会になりました。

個性や個人差があることを実感 仕事内容とのマッチングを考えたい

今まで障がい者雇用は知らない世界でしたが、いろいろな障がいの方がいるのだなと多様性を実感しました。個性や個人差があるという意味では、障がいの有無にかかわらず、個人それぞれへの配慮が必要なのかもしれません。今後の障がい者雇用を考えるとき、個人ごとに受入れ準備をする大変さも見えてきましたが、まずは仕事内容を考え、その仕事に合う方を探していけるようにしたいと思います。

実習受入れ部署・実習時の業務

事務

<実習生の担当業務>

〇さん

勤務時間：9：00～12：00（5日間）

- ▶ シュレッター
- ▶ 社判・担当者印押し
- ▶ 納品書の仕分け
- ▶ メモ用紙作成

Sさん

勤務時間：9：00～12：00（5日間）

- ※連続5日間ではなく、一日おきに実施
- ▶ ファイル作り
- ▶ 納品書検収入力
- ▶ Gメールの整理

実習生の声

仕事に行くことが楽しかったです。

40代女性・Oさん（軽度知的障がい、身体障がい）

実習ではシュレッター、ハンコ押し、納品書の整理など、いろいろな仕事に取り組み、特にシュレッター作業が得意でした。仕事に行くのは楽しかったです。今回は1日3時間の仕事でしたが、もう少し長い時間でも仕事をできそうだと思います。



自分の体力に合わせた実習日程にしてもらえたので、
疲れることなく働けて、自信を持つことができました。



50代男性・Sさん（高次脳機能障がい）

以前、別の企業で実習をした時に、ものすごく疲れてしまって実習翌日に動けなくなった経験がありました。今回は時間も短く、一日おきの実習でもよいと言ってくれたのでチャレンジしようと思いました。仕事内容は、最初は慣れなくて戸惑うところもありましたが、徐々に慣れてしっかりやれたと思います。疲れることもなかったので、自信を持つことができました。

会社の声

実際に取り組んでみるうちに、少しずつ
障がい者雇用についてわかってきたと感じます。

今まで障がいのある方の雇用機会がなく、障がい者雇用についてわからないことも多くありました。今回の実習で、業務の切り出しをする難しさや、障がいのある方の多様性など、いろいろな発見があったと感じています。せっかくこのような事業に参加したので、今後障がい者雇用を前向きに考えたいと思いますが、まずは会社として業務内容の整備に取り組み、各従業員に任せている仕事を分担できる形にしていきたいと考えています。障がいのある方を採用した場合にお任せしたい仕事を整理して、その仕事にマッチする人材を探していきたいと思えます。今回の実習に応募された方々からは、働きたいという気持ちを強く感じました。そのような気持ちを持っている方々に、いろいろな仕事の現場を見てもらえたらとても良いと思えますし、働くチャンスを提供できたらと考えています。



常務取締役
藤村 賢司さん

現場担当者の声

実習生はお二人とも素直な方でした。Oさんは、お任せした仕事をはじめはうまくできなくても、ゆっくりと、具体的に、繰り返し教えることで、きちんとできるようになりました。ひたむきに仕事に取り組む姿勢から、働きたいという気持ちがとても伝わってきました。Sさんの場合は、詳細に説明することは不要で、ご自身できちんとメモを取って仕事に取り組む真面目な方でしたので、こちらとしては休憩を適宜とれるよう声掛けをすることに気を付けていました。実習生とのかかわりの中で、仕事に対する姿勢や、人に教えるやり方など、今までの自分自身を振り返って考える機会にもなったと感じていて、今回の実習は本当に良い経験になりました。



業務部次長
藤村 佳代子さん

企業情報

Automation
System
Creator

INNAMI

所在地：東京都足立区宮城 1-12-22

設立：昭和37年3月27日

代表者：代表取締役 印南 英一

資本金：1,000万円

従業員数：67名

事業内容：受注一貫体制による包装機及び省力化機械製造販売

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing, alternating in color between blue and orange.

A series of horizontal dashed lines for writing, alternating in color between blue and orange.

令和元年度
短時間就業支援事業事例集

雇用就業部ホームページ TOKYO はたらくネット
<https://www.hataraku.metro.tokyo.lg.jp/>



令和2年3月発行

編集・発行 東京都産業労働局雇用就業部就業推進課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
☎03-5320-4663

印刷番号 31(265)



古紙/リサイクル紙含有率70%再生紙を使用しています

VEGETABLE OIL INK

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。